

本年度テーマ	主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について	事業内容	IB教育推進チーム：国際バカロレアの導入に向けた計画について
--------	------------------------------	------	--------------------------------

【概要・目的】

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、学習の振り返りを中心に協議。

平成28年度の当初計画 (P)

【本年度の取組内容】

- ① MYP 認定申請準備
- ② MYP カリキュラム設計にかかる業務
 - ・ MYP の概要、年間指導計画 ・ユニットプランナーの作成
 - ・ MYP ガイド（授業者向け）の作成・パーソナルプロジェクトの計画
- ③ IB 教員養成にかかる業務
 - ・研修の企画・運営・参加 ・公式ワークショップへの参加
 - ・高知県内での公式ワークショップの企画・運営・参加
- ④ 学校広報にかかる業務
 - ・学校説明会、体験授業の実施
- ⑤ 学校の環境整備にかかる業務
 - ・ICT 環境の整備 ・成績処理システム
- ⑥ IB との各交渉（候補校前の規制、高額な費用、地方の公立に沿わない書式等）

【第1回グローバル教育推進委員会でのご意見】

- ・DPのみではテストでいい点を取ることをゴールに設定する選択の仕方がちがちな点がある。MYP から開始することで自分の好きなことや得意なことから社会に関わることを考え、科目選択ができ、生徒の育成ができるので、MYP からの導入を進めていることはすばらしい。
- ・教員育成については、英語に偏っているように感じる。学際的にチームをつくるためにも、芸術等いろいろな教科の先生を養成していただきたい。

【第2回グローバル教育推進委員会でのご意見】

学校文化づくりと高知南、西高、IB の取組の融合について

- ・保護者も学べる場を意識的につくる
- ・「IB の学習者像」を教職員も保護者も理解をすることが大切
- ・IB 以外の教員も教科をこえた学びを理解すること
- ・DP20 名以外も IB の授業を受講することが可能
- ・準備の過程でそれぞれの取組の融合を意識すること

国際バカロレアの導入に向けて ～効果的なカリキュラムの検討～

平成28年度の取り組み状況 (D)

- ① MYP 認定申請準備
 - 10月：第1回申請準備に関する打合わせ実施→第1次日本語原稿作成（11月11日）
- ② MYP カリキュラム設計にかかる業務
 - ・ 2016年10月末までに、全教科中学1年生2ユニットの作成終了。（ユニットプランナーはH28年度内に中学1年生1学期分（ユニット数は教科により異なる）作成予定、H29年度末までに3学年それぞれ最低1学期分作成見込み）
 - ・ MYP の概要（overview）に合わせて、年間指導計画を作成中。
 - ・ 教員のためのオリエンテーション・ツール（教員向けガイドブックなど）の企画。（H30年度開校時までに作成）
 - ・ 「プログラムの基準と実践要綱」を基に、学校内の「協働設計」の在り方を検討
*玉川大学学術研究所のカメダ・クインシー先生に直接指導を受ける
 - ・ 中学校の行事や授業を参観しIBの視点で授業構成を検討。
- ③ IB 教員養成にかかる業務
 - ・ 8月15日・16日 県内での公式ワークショップ実施【MYPの概要について】
参加者：42名 内県内：34
 - ・ 下記のIB公式ワークショップに参加
8月3日～5日【DP：管理職、TOK、数学、生物】参加者：5名（管理職2名）
9月22日～24日【MYP：国語、個人と社会、数学、英語、理科、芸術、体育、デザイン】参加者：11名（英語3名、デザイン2名）
12月16日～18日【DP：司書、TOK、言語B、コーディネーション】参加者4名
 - ・ 教員研修。開校時の教職員が核となり学校文化づくりができるよう検討。
 - ・ H29年8月16日～18日 高知県で公式WSを開催予定。【MYP全教科と礎となるTOK】
- ④ 学校広報にかかる業務（保護者及び一般向けIBセミナー、小学5年生対象体験授業）
 - ・ 8月15日、10月23日、12月23日IBセミナー（同上）開催
延べ人数：参加児童 144名、保護者、一般 294名
- ⑤ 学校の環境整備にかかる業務
 - ・ 成績処理システムの委託業者とIBに対応した仕様になるよう協議中
 - ・ 個人の端末持込みの可能性について、情報政策担当者との打合わせ中
- ⑥ IB との各交渉
 - ・ 日本語での対応、経済的な助成などについて相談を継続していく

課題と今後の取り組み (C, A)

課題

- ①MYP 申請準備
 - ・候補校申請 H30 年 4 月、認定校申請 H31 年 月に向けて、計画通り作成が進んでいる。
- ② MYP カリキュラム設計にかかる業務
 - (1)「協働設計」に関する課題
 - ・協働設計（特に時間の確保）を実質的に実現し有効なものにするに必要な工夫
 - (2)全教育活動を融合させたカリキュラムづくりとユニットプランナーの役割
 - ・全学年各教科の年間指導計画や各領域の全体計画作成から見えてきた課題
 - ・中学生の実態や地域の特性に沿ったカリキュラム内容（評価課題の作成等）
 - ・DP やその先を見据えた MYP 研究
- ③IB 教員養成にかかる業務
 - ・高校普通科も含めた学校全体としての IB 校認定という共通認識で計画的に養成
 - ・厳格な評価のための各教科複数体制での指導の実現
 - ・核となる教員が協働設計の体感をもって成長することの重要性（教科横断的、批判的、知的な喜びの中での協働体験、教員自身が学習であり続ける自覚）
 - ・評価課題作成や模擬評価などによる指導力向上
 - ・県内教職員への IB 周知
 - ・使用言語の障壁
- ④学校広報にかかる業務
 - ・保護者向けの説明に関する課題：「一般の中学校との違い」「学力観」「学びの責任」「教員養成」等
 - ・MYP の課程全体でどのような学びを実現するかという点の伝え方。
 - ・広報対象学年拡大の必要性。丁寧さ、誠実さをもって上記の説明をする際の工夫

次年度の取り組み

- ・学校広報：児童、保護者とも少人数体験型による双方向の体験セミナー開催
HP や SNS 等による細やかな広報活動（統合校在校生、教職員等関係者含む）
- ・学校コミュニティ：地域人材の活用等によるコミュニティづくり
- ・教育内容：DP 各領域の研究、評価課作成、教員のバディ制度等協働設計の仕組みづくり
「情報基地」としての図書館の活用、司書チームのカリキュラムへの参画を検討
- ・教員養成：公式ワークショップの準備とその広報
- ・教育環境：開校を万全の態勢で迎えるための準備。全教育活動をととして学習者像の実現を目ざせるよう、IB の要素をくまなく仕込む。
- ・新設校における MYP と小中高の接続を考慮した生徒指導
小学校での実践事例を知り、MYP カリキュラム設計に活かす。
DP や DP 以外の高校の学びに活かすための MYP カリキュラムを設計。

【平成28年度 到達目標】

学習の振り返りをし、学習者の習得状況を教員及び学習者にフィードバックする



自分で「課題を発見する力」、「課題を解決する力」、「考える力」を身に付けている。